

未来の考え方

－バックキャストイングと持続可能な社会－

大谷翔平選手の「未来の考え方」

アメリカ・メジャーリーグの大谷翔平選手は、野手と投手の「二刀流」で、数々の記録を打ち立てています。野手と投手の「二刀流」での大活躍というのは、これまでのプロ野球やメジャーリーグの常識では考えられないことでした。

大谷選手はどのようにこのような常識を超えたことを達成できたのでしょうか？ そのきっかけの1つが、彼の「未来の考え方」にあるといわれています。



大谷選手は、高校1年生のときに左に示す目標達成シートを書きました。

写真 大谷翔平選手が高校1年生の時に書いた目標達成シート

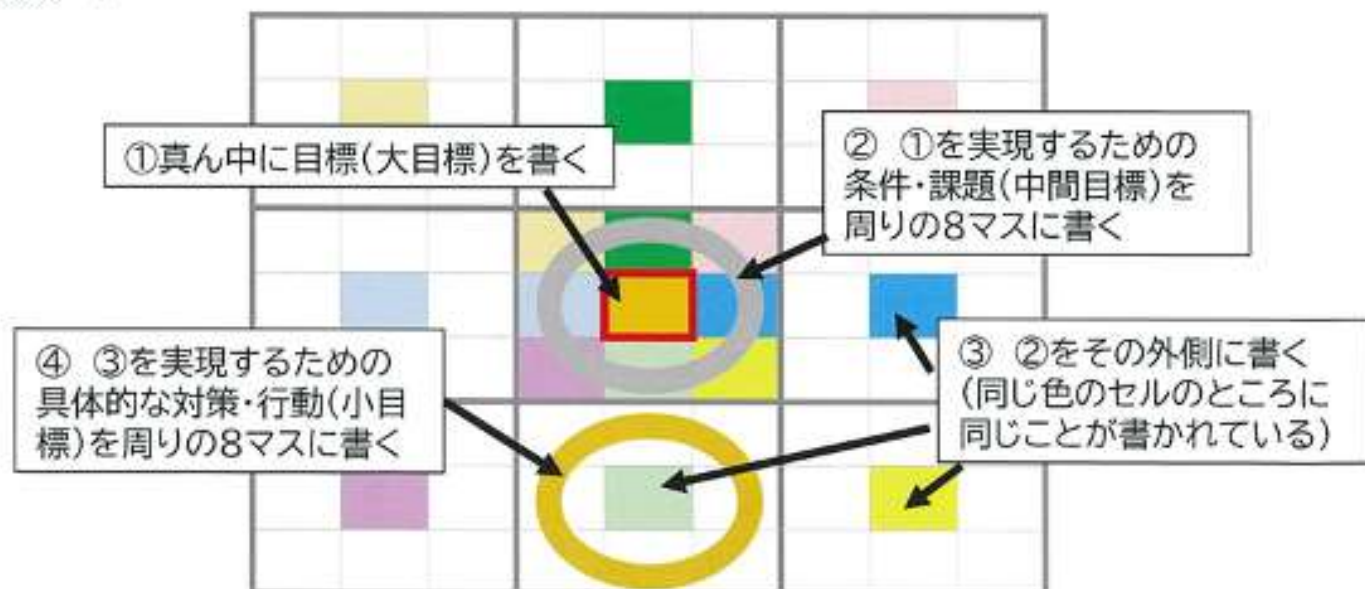


図 目標達成シートの書き方

大谷選手が目標達成シートで実践した、常識にとらわれずに未来の目標を定め、そこから振り返って、目標を達成するためにやるべきことを見つけていく考え方を「バックカスティング」といいます。

2つの「未来の考え方」

ここでは2つの「未来の考え方」を説明します。
 一つが「フォーキャスティング」、もう一つが先ほど説明
 した「バックキャスティング」です。



した「バックキャスティング」



スタートから考える

考え方



ゴールから考える

・フォーキャスティング

- ・ 今までの延長線上 (経験、実績、動向) で考える
 - ・ 「このままの傾向が続いたらどうなるか？」
 - ・ 「いままでそうだったから、こうする」
 - ・ 「目の前の問題をどう解決するか？」
- ・ 実現可能なこと を考える
 - ・ 「今できることは何か？」

・バックキャスティング

- ・ 今までのことはひとまず置いておいて ゼロから考える
- ・ 目標 を定め、制約の中で、その 達成条件 を考える
 - ・ 「どうすれば実現できるか？」
 - ・ 「何をしなければならないか？」

具体的な例

・ 現在の自分の成績から考えると・・・
 進学先は〇〇高校(大学)にしよう。

・ 自分は将来、こういう仕事がしたい→そのためには〇〇を学ぶ(経験する)必要があるから、△△高校(大学)に進学しよう。→そのためには？



・ 明日は雨だから、サッカー部の練習は中止にしよう。



・ 大会で優勝したい→明日は雨だけど、試合は雨の日でも行われるので、雨のコンディションに慣れる練習をしよう。

・フォーキャスティング

・廊下の電球が切れそうだから、同じものを買に行こう。

・葛巻町のリサイクル率が低いので、もっとごみを分別してリサイクルしよう。



・バックキャスティング

・快適に暮らしたい→廊下の電球が切れそうだけど、快適な暮らしのために本当に同じ電球が必要かを考えよう。

・葛巻町の環境を守りたい→ごみや環境負荷を減らさないといけない→リサイクルしても環境負荷が出るし、離島なのでお金もかかる→ごみになってしまう使い捨てのものや無駄なものを買わないようにしましょう。

具体的な例

どう使い分けるのか？

・これまでの常識や対策が通用する場合



・今すぐ実施していく具体的なアクションを考える場合

- ・バックキャスティングで考えた目標の達成に向けて具体的なアクションを考えていく場合など

・すぐ目の前の問題に対処しなければならない(短期的な対策)を考える場合

・これまでの常識や対策が通用しない場合

- ・これまでに(自分が or 誰も)経験したことがない、明確な答えがない、変化が激しく先が読めない、未知の病気など

・達成したい(達成しなければならない)明確な目標がある場合

- ・自分の夢、手に入れたいもの、設定した目標、守らなければいけない締切、果たさなければいけない約束、気候変動問題など

・少し先~かなり先の目標(中・長期的な対策)を考える場合

- ・将来なりたい自分、理想とする社会、地域の未来など





「将来の(本当に)なりたい自分」について考えてみよう

(1)あなたは「将来、(本当は)どのような自分」になりたいですか。できるだけ詳しく書いてください。

考えるためのヒント・・・「〇〇みたいになりたい」という憧れの人はいですか？ 将来どのようなことをしたいですか？ 将来どのような生活がしたいですか？ どのような職業に就きたいですか？

(2)「なりたい自分」になるために、必要な条件・解決しなければならない課題は何ですか。できるだけ詳しく書いてください。

考えるためのヒント・・・必要な資格や能力・知識・技能はありますか？ 必要なモノ・お金はありますか？ このままだと発生してしまう課題はありますか？

(3)(2)で書いた必要な条件・解決しなければならない課題をクリアするために、あなたが今からやらなければならないことは何ですか？ できるだけ詳しく書いてください。

SDGsとは何ですか？

「SDGs」という言葉を聞いたことがありますか？「SDGs」とはどのようなものか知っていますか？ここでは「SDGs」について簡単に説明します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs = Sustainable Development Goals
持続可能な 開発 目標

未来の大目標

誰も取り残さない「持続可能な社会」を実現するために
2030年までに達成しなければならない世界の17の目標

中目標(実現するための条件)

実は「SDGs」は、「誰も取り残さない持続可能な社会」を実現するために、「バックキャストिंग」で作られたものだったのです。

「大事だと思ったこと」、「わからないこと」をここにメモしよう！

「持続可能な社会」と目標11

「SDGs」で目標に掲げている「持続可能な社会」とは、どんな社会なのでしょう？

「持続可能」ということは、
「誰もがずっと〇〇できる」ということ

例えば・・・

- 「誰もがずっと地球に住むことができる」
 - 「誰もがずっと幸せに生きていける」
 - 「誰もがずっと安心して暮らしていける」
 - 「誰もがずっと自分らしく生きていける」
 - 「誰もがずっといろいろなことに挑戦することができる」
- などなど……



「持続可能な社会」とは、↑のような社会

高校生向け

Sustainable=「持続可能」という言葉がよく使われるようになったのは、「環境と開発に関する世界委員会(WCED)」が1987年に出した“*Our Common Future*”という報告書からです。そこでは以下のように書かれています。

“Sustainable development is development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs.”

持続可能な開発とは、将来世代の要求を満たす能力を損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発である。

WCED(1987)“*Our Common Future*”

つまり・・・

- ①「今さえよければよい」ではなく、「未来も同時によくなる」こと
- ②今を生きる人々も、未来を生きる人々も、誰もが個人としての基本的な要求(自由で、平等で、健康で文化的な生活)が満たされることが「持続可能」ということです。

11 住み続けられる まちづくりを



目標11は、SDGsの地域での実現=「持続可能な地域」の実現を目指すもの

ワークショップでは、
「誰もがずっと〇〇できる」葛巻町の実現について考えます



「持続可能な葛巻町」について考えてみよう

(1)あなたが実現してほしい「誰もがずっと〇〇できる葛巻町」とは、どんな葛巻町ですか？

1つだけでなく、たくさん書いてください。

考えるためのヒント…未来の葛巻町に住む人の身になって考えてみましょう。自分たちだけでなく、小さい子どもやお年寄り、子育てをする親など、様々な立場に立って考えてみましょう。

(2)あなたの考える「誰もがずっと〇〇できる葛巻町」の実現のために、必要な条件・解決しなければならない課題は何ですか？

考えるためのヒント…「くずまき未来カルテ 2050」の結果を参考にして考えてみましょう。バックキャストिंगで考えてみましょう。

(3)(2)で書いた必要な条件・解決しなければならない課題をクリアするために、今からやらなければならないことは何ですか？

(4) 葛巻町長に提案するつもりで

葛巻町の未来の姿を考えて、葛巻町の未来を明るくするためのこれからしなければならない、こうした
らしい「対策・政策」を考えてください。

自分が興味・関心を持っている分野を中心に、思いつきでよいのでたくさん出してください。

たとえば・・・

各家にソーラーパネルを設置してエネルギーの自給を図る

廃校を活用して子供の居場所を作る

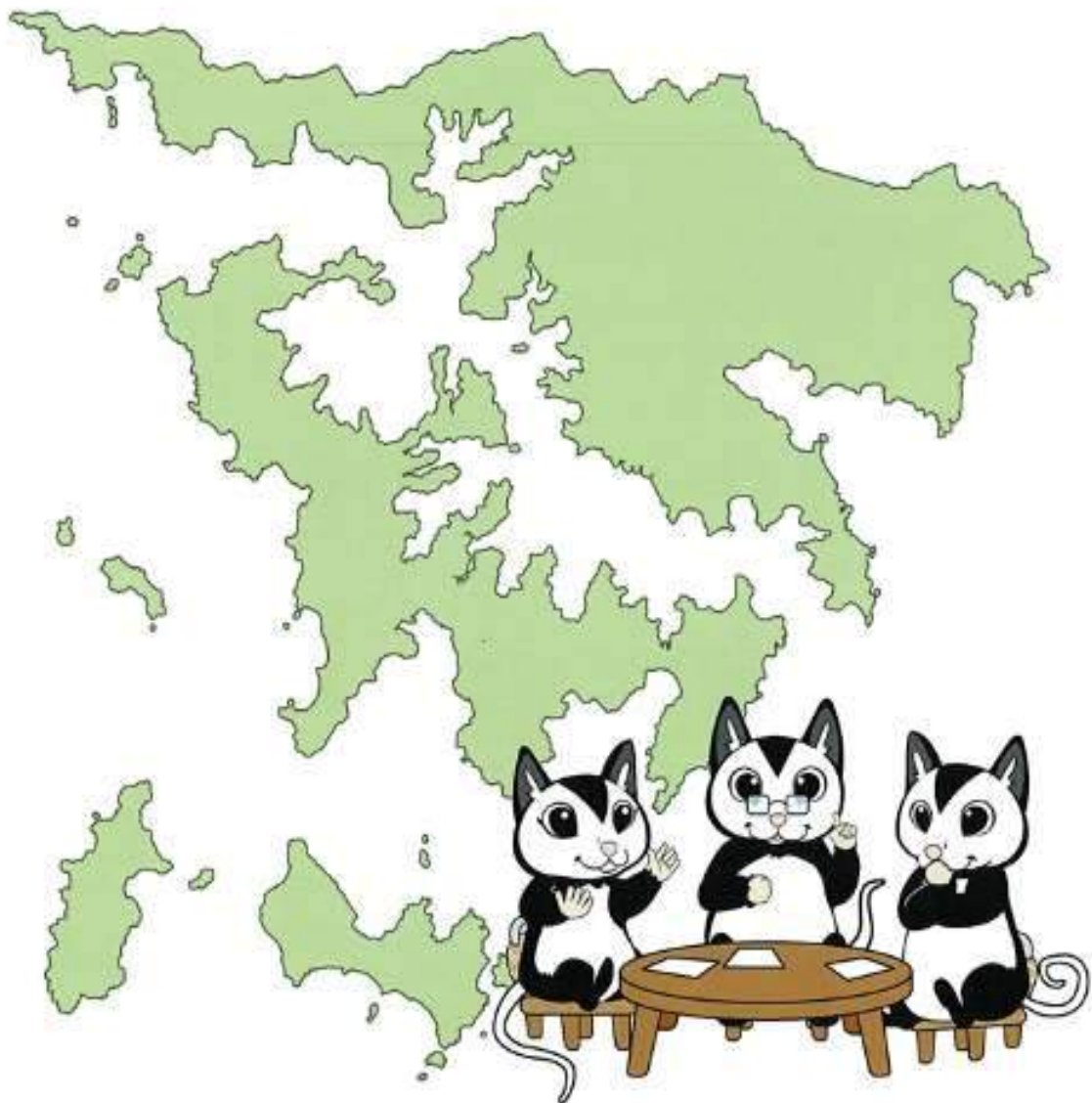
医療費が増えないように元気な年寄りになってもらう(予防)

葛巻町だけで完結しないで他の町と役割分担する

安全に移動できるように自動運転バスを走らせる

買い物に行かなくて済むようにドローンで荷物を運ぶしくみを創る

町の中で作られた再生可能エネルギーを格安で町民に提供する などなど



▷データ責任など

未来カルテ2050のデータは、千葉大学大学院社会科学研究院倉阪研究室の研究グループが作成しており、責任を負います。バックキャストと持続可能な社会に関するページは、芝浦工業大学のグループが作成しました。

「未来カルテ2050」・「カーボンニュートラルシミュレータ」は、環境研究総合推進費で2019年から2021年まで行われた「基礎自治体レベルでの低炭素化政策検討支援ツールの開発と社会実装に関する研究」(Open Project on Supporting-tools for Municipalities towards Decarbonized Societiesの頭文字をとって通称「OPoSuM-DS」、研究代表者:倉阪秀史)により開発されました。2022年度以降は、JST共創の場支援プログラム(COI-NEXT)本格型「ビヨンド・“ゼロカーボン”を目指す“Co-JUNKAN”プラットフォーム」研究拠点(研究代表者:菊池康紀)および日本学術振興会科学研究費補助金基盤B「地域人材育成に資する持続可能性の専門知を学校教育にどのように実装するか」(研究代表者:栗島英明)の一環として継続的に開発・改良に取り組んでいます。

JST共創の場形成支援プログラム Grant 番号 JPMJPF2003
環境研究総合推進費体系的番号 JPMEERF20192010
日本学術振興会科学研究費補助金22H03815